

## 第2回安平町早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会議事録

○日時:令和元年9月10日18時30分~20時00分

○場所:安平町役場2F大会議室

○出席者:合同学校運営協議会委員14名 教育委員会事務局3名 傍聴者1名

<教育委員会より挨拶>

事務局:基本計画ができ、パブリックコメントを終え、今日の合同運営協議会もしっかりと皆様から意見をいただき、これからもしっかりとした手続きで学校再建をしていきたい。

<会長・副会長の選任>

事務局:本日の合同コミスクは、委員全体で36名、出席14名、委任状10名で合わせて24名で合同コミスクは成立する。順番が前後してしまったが、合同コミスクの会長と副会長を選任したい。検討部会の流れを汲んで、会長に三本委員、副会長に原山委員、久米委員でご承認いただけますでしょうか?

委員:異議なし。

会長:司会進行をしっかりとやっていきたいと思う。みなさん色々な意見とご協力をいただきたい。これより議事に入ります。

<安平町立早来中学校再建事業基本計画(案)について>

事務局:基本コンセプト「自分が世界と出会う場所」として、地域に開かれた、または様々な世代が色々な価値観や考え、世界に出会う場所として設定した。計画策定に関して、事務局が原案を作成、そして検討部会や考える会、教職員検討会の意見を経て作成されている。そして今日の合同学校運営協議会で承認されれば、教育委員会で審議され9月の議会報告となります。早来中学校の単独再建、早来小学校との施設一体型校舎による再建に関しては、財政や地理的な部分など総合的に様々なことを鑑み、施設一体型で建設するという形になった。その他、基本計画にはワークショップ等の議論の結果、計画条件等が掲載されている。また、計画目標の欄には目指す学校像、施設計画の目標、ICT教育環境、避難拠点のあり方等が明記されている。次に室面積構成について、教室が非常に広く取られており、これは学級増にも対応できるようになっている。図書室も地域開放に資するよう、広く設定されている。体育館は大アリーナ、中アリーナの2つがあり、用途によって使い分けることが可能。配置平面計画については平屋建て、2階建て2パターン、3階建ての4パターンの案がある。今回の計画ではどれになるのかは示していない。設計の段階で業者がこれから案を参考に考える。この基本計画は、1月から3月の町民ワークショップやヒアリングを参考にして作成した調査資料をもとに作っている。また、パブリックコメントでの意見は0件である。そのため、住民の意見をおおむね網羅した形で作成できたと考える。

会長:ここまでにしても意見は?

委員:小中一貫校と義務教育学校で設計の方法は変わるのか?そもそも小中一貫校なのか、義務教育学校なのか?

事務局：変わらない。また、今回の基本計画に義務教育学校という文言は載っていない。教育委員会としては、小中一体の学校をあの場所に建てるということは決まっているが、義務教育学校に関しては今後議論していく内容であると考えている。

委員：基本計画作成において、本当に町民の意見を反映しているのか？意見を言う場はあったのか？非常に疑問が残る。

事務局：そのご意見は真摯に受け止めるが、現状において最優先で考えなければならないのは、仮設校舎で教育活動が行われている現状である。また、パブリックコメントが0件という結果。誰でも参加できる形で新しい学校を考える会を開催し、町民説明会も何度も実施した。至らないところもあったということは重々承知した上で、やはり仮設校舎の子どもたちや保護者の気持ちを考え、このような形で進めてきた。

委員：中学校単体ではなく、小中一体にしたことで建設が遅くなっているのではないか？

事務局：それは単体であっても、一体であっても変わらない。進め方に至らない点があったのは否定しないが、学校を1日でも早く建てる必要があると考えている。

委員：義務教育学校ありきで最初進めていたやり方に問題があったのでは？

事務局：進め方の不備があったことは認めるが、様々な協議会やワークショップを整えて順番に1つずつ問題を整理して進めてきた。

会長：他に意見は？

委員：賛成意見として、基本計画を見る限り、学校建設の財政経費としてもこれからの教育を考えると非常に魅力的で良いものになっていると思う。

委員：地震があったあと、1日でも早く先生方が本来的な業務に専念できるようにしてほしい。

委員：保護者としては、子どものために早く学校に入って良い環境で勉強させてあげたい。

会長：それでは次の議題に進みます。

事務局：本日ここで基本計画が承認され、教育委員会で審議の上承認になると、9月議会報告という流れである。そして10月より設計に入る。以降のスケジュールに関しては、別紙のスケジュール(案)に記載がある。今後に関しては町民参画推進条例に則って進めるため、合同コミスクに関しては今回をもって終了するが、今後はワークショップの学校を考える会で町民の方の意見を反映していく。

会長：このスケジュールより遅れる可能性はあるか？

事務局：工事がこの期間で終わるのかということが1つの懸念点。現在、高圧ボルトの不足で各地の公共

施設の建設が遅れている。こういった建設資材や職人不足によって遅れてしまうことがあるかもしれない。内的要因で遅れることはないように進めていく。

委員：基本的な業務に加えて、学校建設のものが加わってくると、町の組織体制に関して不安があるがどうなのか？

事務局：人手が足りない部分があるが、総合教育専門員の導入、基本計画に関しても外部業者との連携など業務の分散はしている。今後も問題がないように努力していく。

会長：他に意見がないようなので、基本計画の案について承認でよろしいでしょうか？

委員：義務教育学校に関する議論はこのあとの議論ということで大丈夫か？

事務局：はい、この後の議論であります。

委員：コミスクのメンバーの出席が非常に少ないが、これで賛否をとって良いのか？

会長：委員全体で36名、出席14名、委任状10名で合わせて24名で合同コミスクは成立している。

委員：ここで自分が賛成すると、早来小学校中学校は非常に近代的なものになり、安平小と遠浅小との教育格差が開いてしまうことを懸念している。もちろん選択制の話はあるが、これに関してはその議論とは今回分けて考えるべき。小中一体の学校建設で教育格差が出てしまうという議論を鑑み、コミスクとしてはここで賛成や反対の意見を表明すべきではないと考える。安平小・遠浅小のコミスクのメンバーは地域に帰ってその心配をしなければならぬし、その選択性等の意見がまとまって出てきて話し合いをするのがベストだと考える。中には中学校単体で先に建てれば良いという意見を持っている方も多くいらっしゃると思うので、そういった意見をないがしろにして進めるとコミスク全体が機能しなくなる気がする。こういった意見を踏まえて教育委員の中で議論してほしい。

委員：この会議の規約として、会長以外全員が欠席して他のすべての委員が委任状だった場合でも成立するのか？

事務局：一般的な会議においてもそういった設定はしていない場合が多い。しかしながら参加者よりも明らかに委任状の数が多くなったという場合は、開催を見送るということもありえる。

会長：今日の基本計画についてはよろしいでしょうか？

委員：異議なし。

事務局：色々ご意見をいただきありがとうございます。